

令和元年度  
サロン運営者に対する介護予防の居場所づくり  
への調査アンケート

結果報告書

令和2年 3月31日

社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

## はじめに

「ふれあい・いきいきサロン」は、平成6年に全国社会福祉協議会が「地域を拠点に住民が主体的に企画・運営する楽しい仲間づくり・居場所づくりの活動」として普及を行い、全国各地に取り組みが広まった活動です。

坂井市においては、旧町の社会福祉協議会にて、地域の特性にあわせ、地域住民と協働しながら活動の普及を行い、現在、市内134ヶ所の「ふれあい・いきいきサロン」が活動を行っています。

坂井市誕生以降は、行政の協力のもと、高齢者の介護予防施策の一つとして実施してきました。「介護予防・日常生活支援総合事業」が開始された平成29年度以降は、高齢者の見守り活動や、孤立防止、介護予防の効果を目指し、活動の輪を広げ、地域住民の高齢者福祉に対する意識向上につながっています。

今後、高齢者の増加が予想される中で、外出の機会や居場所の一つであるサロン活動はますます重要な役割を果たすと考えております。

また、平成29年に改正された社会福祉法では、「地域共生社会の実現」という新たな目標も掲げられました。

そこで、坂井市社会福祉協議会では、改めて、地域住民が目指す居場所、必要な支援を知り、今後のサロン活動の推進に活かしていくことを目的にアンケート調査を実施しました。

当会では、調査結果をもとに、今後、より一層のサロン活動の輪が広まるように推進を図りたいと考えています。

サロン運営関係者の皆様には、本調査結果をご参照いただき、サロン活動へのより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に、アンケート調査にご協力いただきましたサロン運営者の皆様に心から感謝を申し上げます。

令和2年3月

社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会  
会 長 内 田 正 義

## 目 次

I	アンケート調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	アンケート調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	1 回答率	
	2 回答者のサロン活動状況	
	3 活動していると答えた方が開催目的として大切にしていること	
	4 開催頻度	
	5 開催範囲	
	6 開催頻度の増加の可能性について	
	7 開催頻度を増やすために必要な支援	
	8 地域であると良いと考える居場所やそのための条件	
	9 住民主体で地域の居場所を運営する際に必要な支援	
	10 自由記載	
III	結果から見えてきたこと・・・・・・・・・・・・・・・・	25
IV	資料編・・・・・・・・・・・・・・・・	28



# I アンケート調査概要

## 1. アンケート調査の目的

1. 名 称 令和元年度サロン運営者に対する介護予防の居場所づくりへの調査

2. 目 的

坂井市では、地域介護予防活動としてサロン活動を推進しており、今後、高齢者の増加が予想される中で、外出の機会や居場所の一つであるサロン活動は高齢者の介護予防において、ますます重要な役割を果たすと考える。

本調査は、サロン運営者に対し意識調査を行い、今後、介護予防を推進するために必要と考えられることを把握し、サロン活動の運営支援に活かすことを目的とする。

3. 調査主体 社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

4. 調査対象

令和2年3月時点で、坂井市社会福祉協議会の実施する地域介護予防活動（サロン）に登録する高齢者サロンの代表者へ依頼

(内訳)	三国町・・・19名	丸岡町・・・23名
	春江町・・・44名	坂井町・・・24名

※ただし、三国町については、1つの地区ふくしの会にて、複数ヶ所のサロンを運営している会もあるため、サロン開催箇所数ではなく、地区ふくしの会の代表単位で依頼

5. 調査方法 郵送配布・郵送回収（令和2年3月6日発送）

6. 調査時期 令和2年3月6日～3月19日

7. 配布数 110枚

## Ⅱ アンケート調査の結果

## 1. 回答率

110ヶ所のサロンに依頼し、72件の回答があり、回答率は、65%であった。

各町単位での回答率は、三国町は19か所に依頼し、13件の回答があり、回答率は68%、丸岡町は23か所に依頼し、14件の回答があり、回答率は61%、春江町は44か所に依頼し、27件の回答があり、回答率は61%、坂井町は24か所に依頼し、18件の回答があり、回答率は75%であった。

## 2. 回答者のサロン活動状況

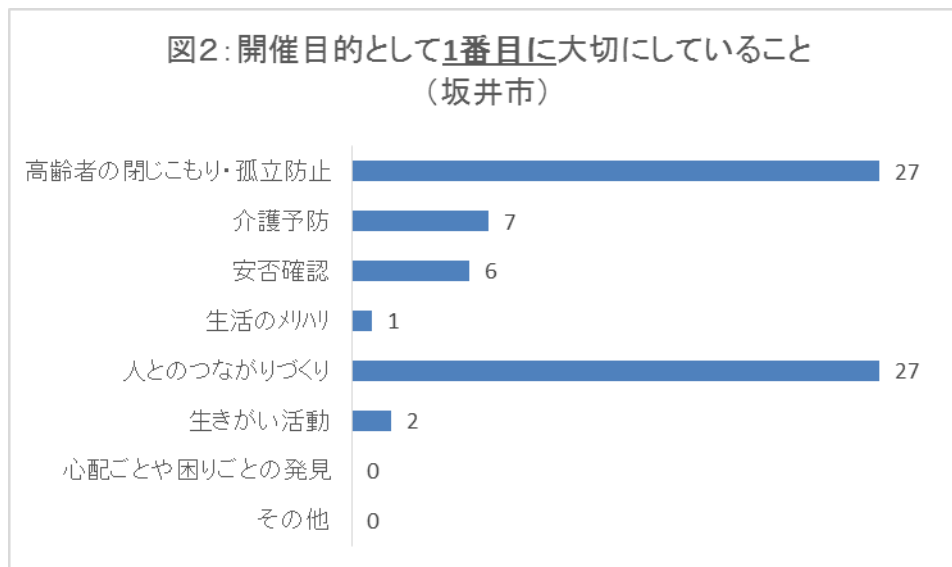
回答者の活動状況は、活動をしている方の回答が70件（97%）、活動をしていない方の回答が2件（3%）であった。

## 3. 活動していると答えた方が開催目的として大切にしていること

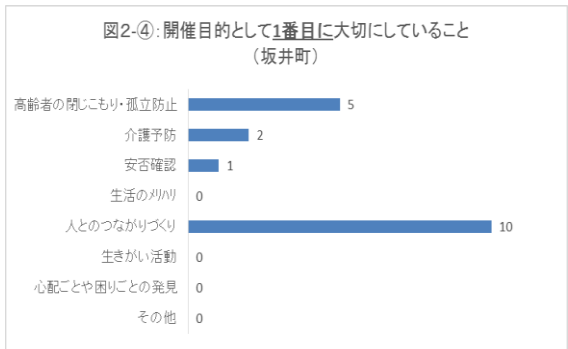
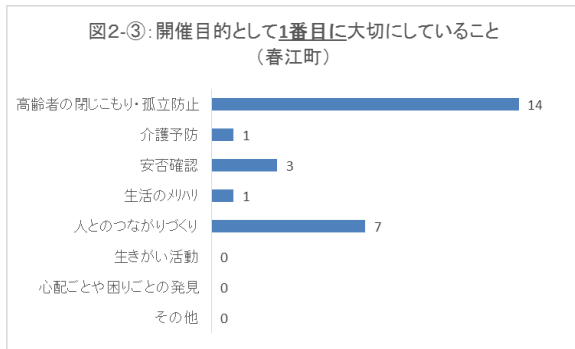
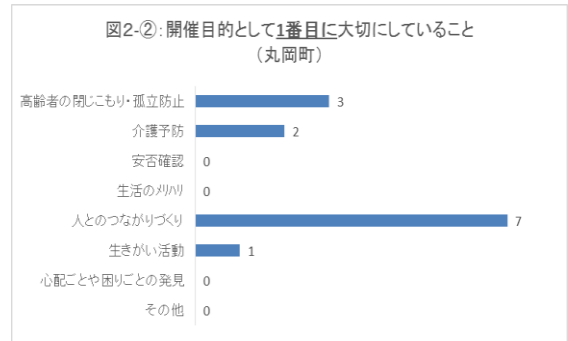
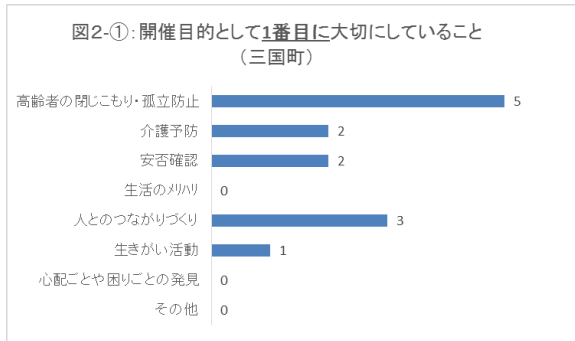
### (1) 1番目に大切にしていること

活動している方が、開催目的として1番目に大切にしていることは、「高齢者の閉じこもり・孤立防止」「人とのつながりづくり」はそれぞれ27件（39%）と最も高く、次いで、「介護予防」が7件（10%）、「安否確認」が6件（8%）、「生きがい活動」が2件（3%）、「生活のメリハリ」が1件（1%）であった。

その他の項目「心配ごとや困りごとの発見」、「その他」を選んだ方はいなかった。

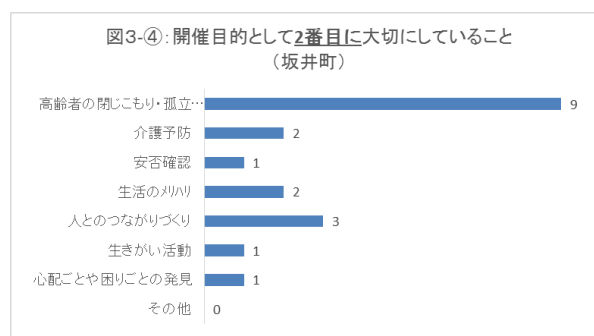
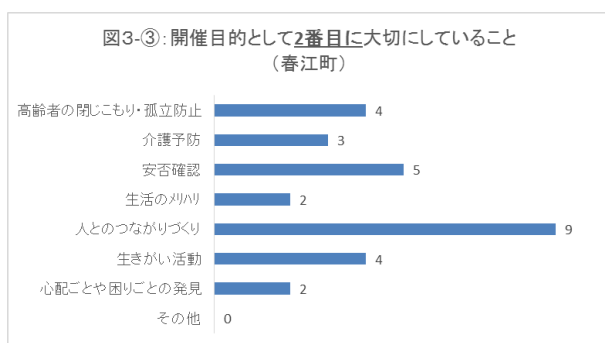
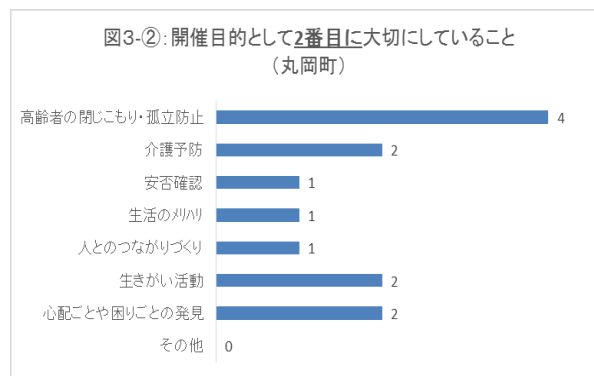
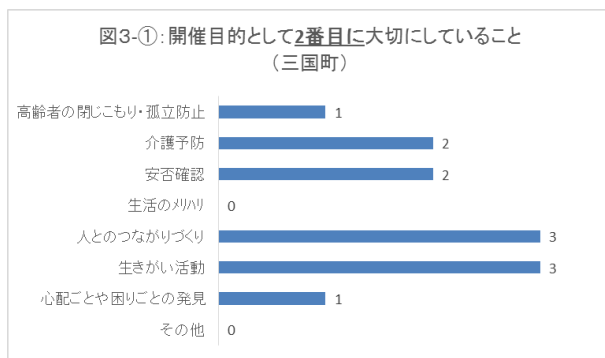
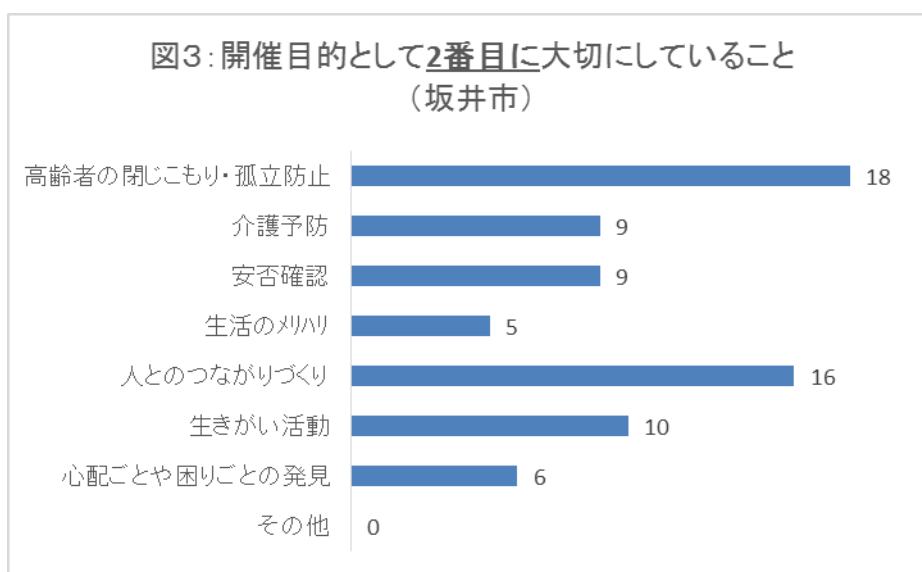






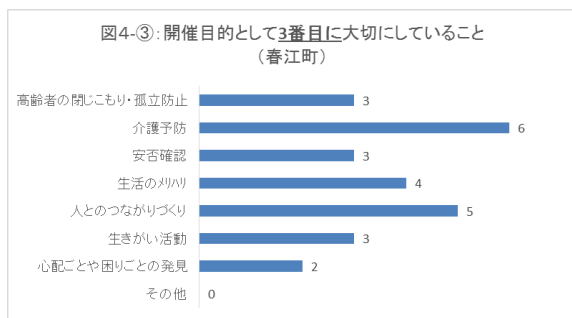
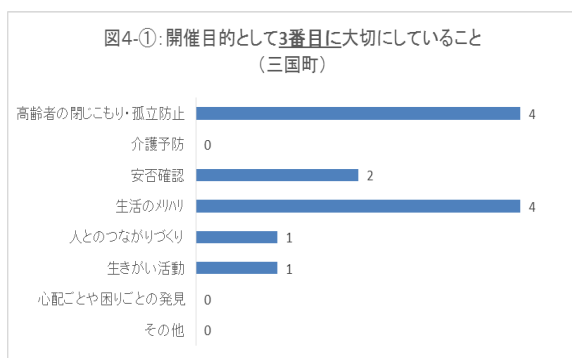
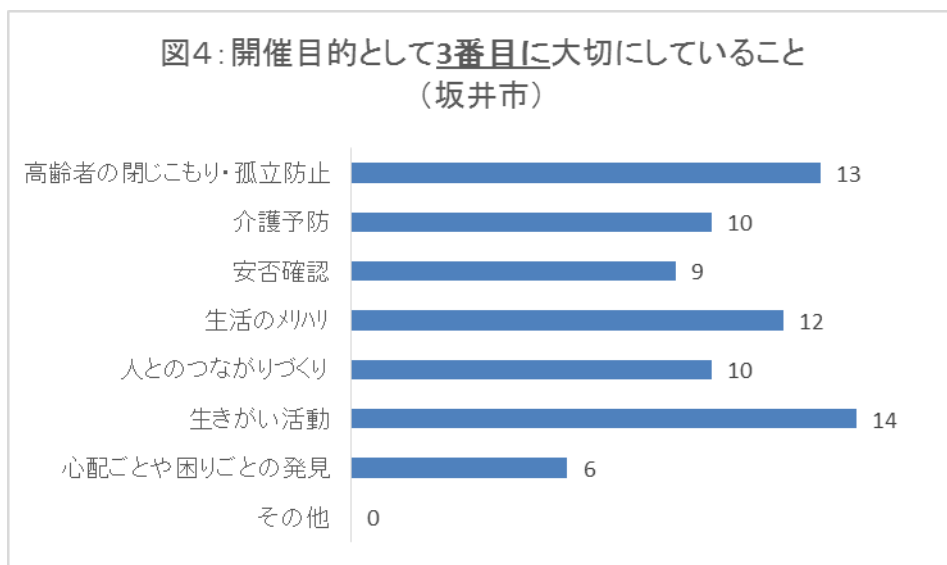
## (2) 2番目に大切にしていること

活動している方が、開催目的として2番目に大切にしていることは、「高齢者の閉じこもり・孤立防止」が18件(25%)と最も高く、次いで、「人とのつながりづくり」が16件(22%)、「生きがい活動」が10件(14%)、「介護予防」「安否確認」はそれぞれ9件(12%)、「心配ごとや困りごとの発見」が6件(8%)、「生活のメリハリ」が5件(7%)であった。「その他」を選んだ方はいなかった。



### (3) 3番目に大切にしていること

活動している方が、開催目的として3番目に大切にしていることは、「生きがい活動」が14件(19%)、「高齢者の閉じこもり・孤立防止」が13件(17%)、「生活のメリハリ」は12件(16%)、「介護予防」「人とのつながりづくり」はそれぞれ10件(14%)、「安否確認」が9件(12%)、「心配ごとや困りごとの発見」が6件(8%)であった。「その他」を選んだ方はいなかった。



### 【町単位の回答傾向をみると・・・】

- ・三国町では、1番目に「高齢者の閉じこもり・孤立防止」、2番目に「人とのつながりづくり」「生きがい活動」、3番目に「高齢者の閉じこもり・孤立防止」「生活のメリハリ」を選択した件数が多かった。
- ・丸岡町では、1番目に「人とのつながりづくり」、2番目に「高齢者の閉じこもり・孤立防止」、3番目も「高齢者の閉じこもり・孤立防止」と選択した件数が多かった。
- ・春江町では、1番目に「高齢者の閉じこもり・孤立防止」、2番目に「人とのつながりづくり」、3番目に「介護予防」を選択した件数が多かった。
- ・坂井町では、1番目に「人とのつながりづくり」、2番目に「高齢者の閉じこもり・孤立防止」、3番目に「生きがい活動」を選択した件数が多かった。

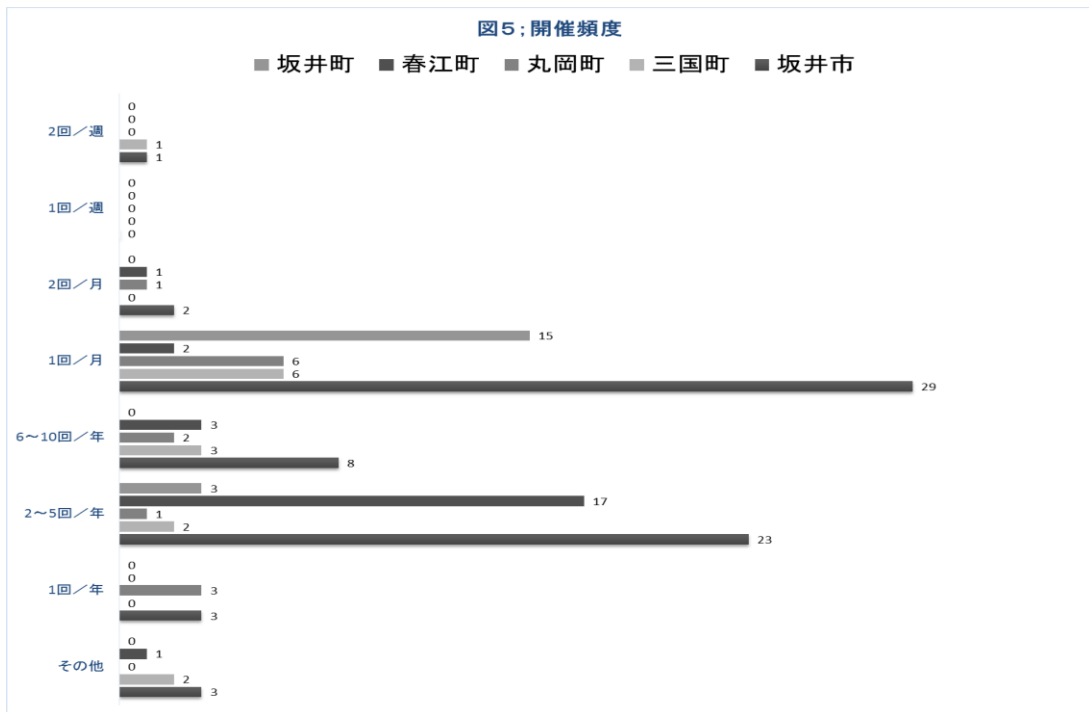
## 4. 開催頻度

開催頻度は、「月1回」が29件(42%)、「年2~5回」が23件(33%)、「年6~10回」が8件(12%)、「年1回」「その他」が3件(4%)、「月2回」が2件(3%)、「週2回」が1件(1%)であった。

「その他」項目では、「年数回」「区全体で1回」「年12回(複数箇所の合計)」という回答があった。

尚、「週1回」という回答はなかった。

また、未記入は1件(1%)であった。



### 【町単位の回答傾向をみると・・・】

アンケートを回答された件数の集計においては、

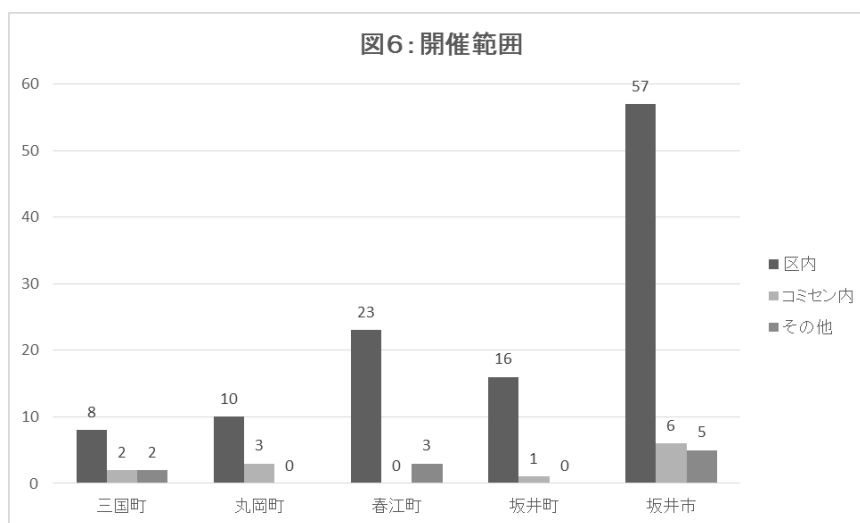
- ・ 三国町、丸岡町、坂井町は、月1回の頻度が最も多く、春江町は年に2~5回頻度が最も多かった。

※ただし、各町において、回答率の差があるため、今後、さらなる検証が必要な項目と考える。

## 5. 開催範囲

開催範囲は、「区（集落）内」が57件（81%）、「コミュニティセンター内」が6件（9%）、「その他」が5件（7%）で、「その他」項目では、「管理センター」「合同で開催するため、他地区の区民館」という回答があった。

尚、未記入は2件（3%）であった。

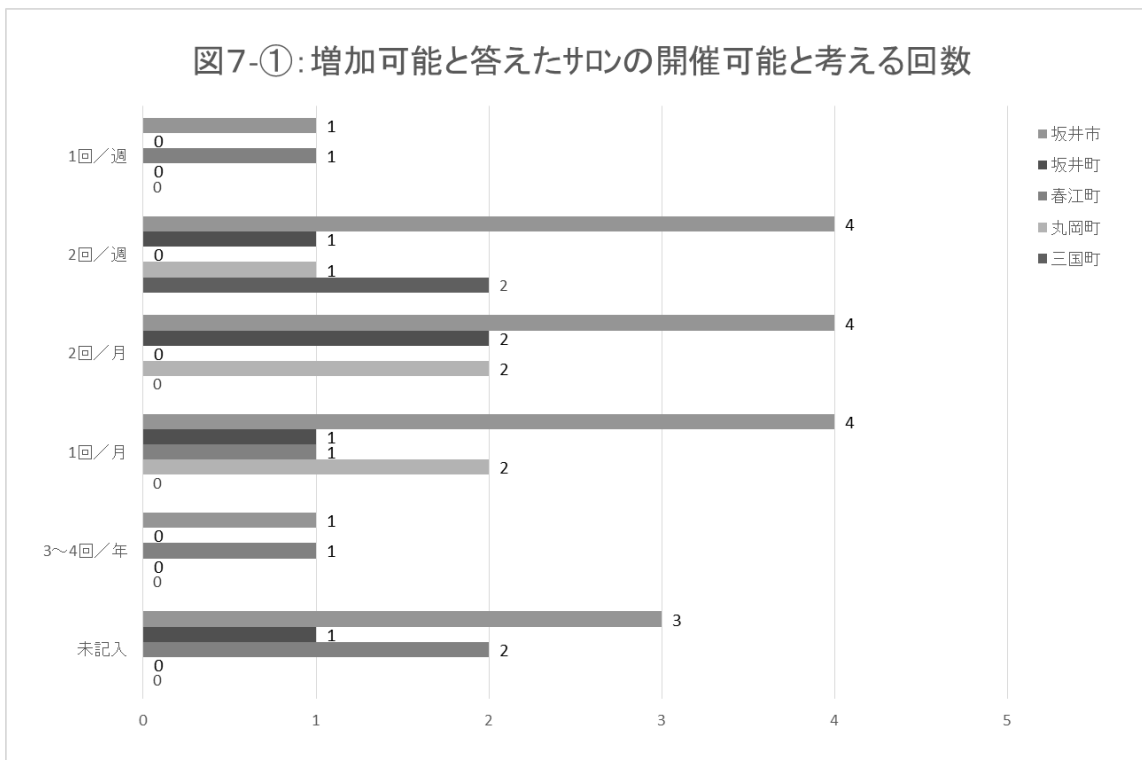
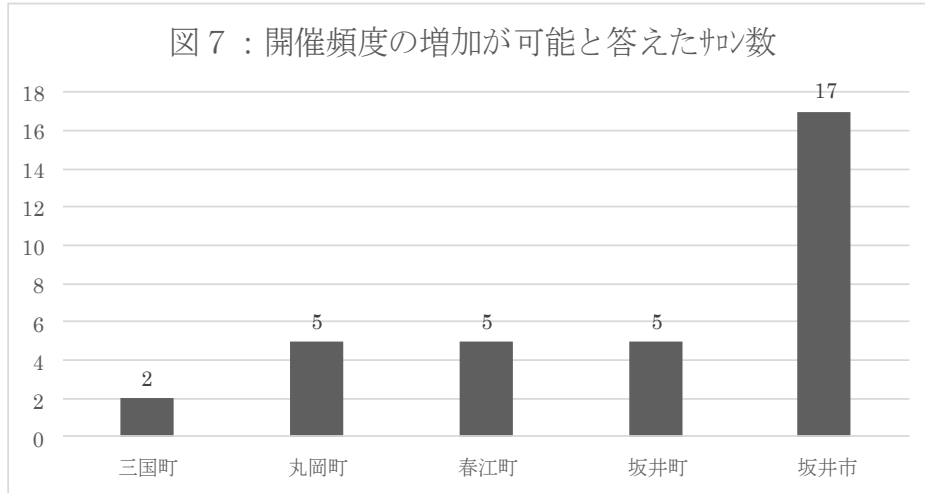


## 6. 開催頻度の増加の可能性について

今後、サロンの開催頻度を増やすことが「可能」と答えた件数は、17件（24%）であった。

尚、町単位の内訳は、三国町が2件、丸岡町が5件、春江町が5件、坂井町が5件であった。

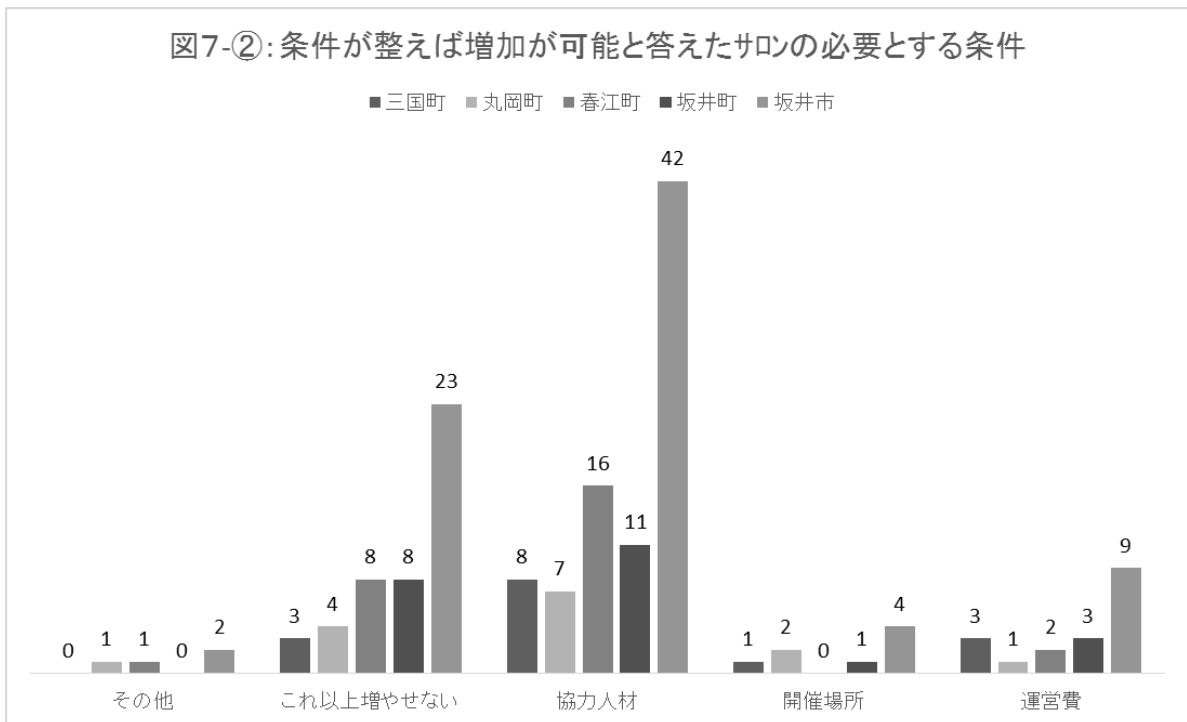
また、「可能」と答えた17件のサロン運営者が考える「増加可能な回数」は、「月1～2回」が8件と最も多く、「週1～2回」が5件、「年3～4回」が1件、「未回答」が3件であった。



## 7. 開催頻度を増やすために必要な支援

今後、サロンの開催頻度を増やすために必要な支援として、「協力人材」が 42 件 (74%) と最も多く、「運営費」が 9 件 (16%)、「開催場所」が 4 件 (7%)、「その他」が 2 件 (3%) で、「その他」項目では、「開催が夜になる場合の支援」という回答があった。

尚、本項目においては、「これ以上増やせない」と答えた回答が 23 件あったが、「協力人材がいれば可能」という項目と複数回答者が 6 件あり、「これ以上増やせない」のみは 70 件中 17 件で全体の 24%であった。





## 8. 地域であると良いと考える居場所やそのための条件

本項目は、自由記載にて回答を依頼した。

- ◆居場所の開催場所としては、対象者が歩いていける身近な場所として区民館の利用の記載が多かった。

(自由記載内容)

- ・区民館（集落生活改善センター）
- ・対象者が歩いていける場所となる区民館以外は困難
- ・築も新しい自治会館で歩いていける、交流場としても活用していきたい
- ・米ヶ脇は立派な区民館があるので、あとは必要ない。ただ、数人集まれる（一種のサロン）場所は以前に売店があった。サロンの後に数人が車で喫茶店で時間を過ごすこともあり。これもサロンの一つ。田舎になるとそういう場所が段々減ってくるのも事実

- ◆居場所の条件としては、誰かがいて、毎日開催しており、気軽に立ち寄れるという条件の記載が多かった。

(自由記載内容)

- ・どなたでも気軽に立ち寄れる場所
- ・いつでも会場に誰かいて、心がほっこりできる場所
- ・気軽に通える雑談ができるところ、話を聞いてくれる人が居るところ  
毎日開催していると良い
- ・サロン専用の部屋
- ・いつでも気軽に集える場所でバリアフリーが望ましい
- ・自由に行き来のできる雰囲気の良いこいの家
- ・ちょっと行って、お茶（コーヒーなど）を飲む場所、状態をつくることで、色々な人に居場所が出来るのではないか
- ・サロンを開催した時だけ集まるのではなく、いつでも気楽にお茶のみで寄れるような場所
- ・散歩がてらに立ち寄れる場所
- ・現在は集落センターですが、地域が広すぎるので、もう少しコンパクトに2~3か所、住居みたいな雰囲気の中で、家庭的な状態で活動できる居場所（子どもたちも自由に出入りができて）
- ・高齢者が自由に行き来できる場所。そこへ行けば、誰かがいて、話しができる場所
- ・いつ行っても誰かがいて、世間話ができるような居場所

- ・開放的なお店とか、公共施設とかがあり、空いた時間に談笑できる立ち寄り場所

◆活動の内容の記載としては、「喫茶」「多世代交流」「運動」「介護予防」「多様な活動や社会参加につながる活動」などに大きく分けられる。

(自由記載内容)

#### 「喫茶」

- ・毎日来れるサロンで喫茶コーナーがある居場所
- ・近くで週2、3回 気軽に集える喫茶店みたいなところ、セルフサービスで(必要あれば協力者も)
- ・歩いていけるところで、気軽に集まれる喫茶店のような場所
- ・お茶が飲める場所

#### 「多世代交流」

- ・年齢・性別に関係なく、みんなが楽しめるような場所(多世代交流)
- ・子ども達と高齢者が簡単に交流できる場所、イベントなど
- ・子どもから若い人、高齢者まで誰でも自由に参加できる場所

#### 「運動」

- ・軽度なスポーツが出来る施設
- ・私たちの近くの集会場に隣接していると徒歩でいけるので参加人数が増加するのでは。
- ・軽い運動をしながらゲーム遊びをする

#### 「介護予防」

- ・みんなが気楽に集まって、おしゃべりできる場。身体を動かしたり、ゲームをしたりと参加者が楽しみながら介護予防できる場

#### 「多様な活動や社会貢献につながる活動」

- ・簡単な料理教室や季節に応じた催し物があると良い  
また、室内でできる運動やコーヒータイムと称した何もしなくてもお茶を飲むだけの会もあっても良い
- ・高齢者の方々が少しでも「社会貢献できているのだなあ。」と実感できる居場所
- ・お年寄りが自由に集まれる場所を提供するだけでも良い(自主性を大事に)
- ・地域共有ファーム＝お互いに助け合って作業をこなし、何らかの野菜、果実、花などを育てる。交流の場、共同作業の場を設ける。出荷までできると尚良い
- ・囲碁、将棋、麻雀等の選択肢のあるような多様な場

- ・集会所などを週に1回程度開放して、カラオケや将棋などを自由に楽しんでもらう
- ・集落センターの草取りおよび花づくり
- ・週1回程度 午後2～5次 3時間程度 集落センターを開放し、憩いの場（茶話会からはじめて）を持ち、高齢者、子どもが集まると良い。人とのつながり作り、多様な活動の場、役割を担っての生きがいの場になっていくのではないか

◆対象者として特に「男性」が参加できる居場所の必要性の記載があった。

（自由記載内容）

- ・現在は女性が多いが、男性にも参加してほしい
- ・月1～2回男性も集まれるサークル
- ・男性主体のサロン

◆その他、自由記載として下記の記載があった。

- ・西長田の場合、駅舎が新築された時、駅舎の中での対話スペースが欲しい（いつでも出入りできる場所として）
- ・大きな公園とかあると良いと思う。サロンに限らず
- ・大きい行政区は複数の居場所づくり
- ・区内に集会所以外の居場所
- ・昔あった老人センター施設みたいな場所

## 9. 住民主体で地域の居場所を運営する際に必要な支援

本項目は、自由記載にて回答を依頼した。

- ◆サロン支援の協力人材の確保については、大きく分けると「地域の福祉関係者（民生委員・福祉委員）以外の担い手」、「専門的な知識をもった方」、「運営支援をしてくれる方」などの記載に分けられる。

### 「地域の福祉関係者（民生委員・福祉委員）以外の担い手」

- ・運営する人数が現在の福祉委員、民生委員では不可能
- ・居場所を運営していくには、月に2人×4回=8人～10人程度のボランティアが必要（住民の中で70歳～78歳くらいの人で）
- ・自分の地区は、福祉委員にすべてを任せているので、1人では負担が大きすぎるもっと協力してくれる人がいて、こじんまりしたサロンで気軽に参加できるようにしたら良いと思う
- ・スタッフが出来るだけ多いと良いが、誰でも良いという訳にもいかないなので、個別に当たってみたいと考えている
- ・江留上コミュニティセンターが近いので、そこを利用して、雑談や軽い運動ができるように。民生委員や家庭相談員に協力が頂きたい
- ・世話役、資金は絶対必要だけど・・・？人材は・・・？難しいですね

### 「専門的な知識をもった方（介護・レクリエーション）」

#### （介護分野）

- ・介護予防のための人材が必要。居場所の提供は可能
- ・ケアマネージャー等の方が定期的に来て頂けるとわからないことが相談できる
- ・ある程度、地域福祉と介護に精通したスタッフがバックアップしてくれると心強い

#### （レクリエーション分野）

- ・いろんなことを教えてくださる講師
- ・体操、ゲームなどを指導してくれる人  
(参加者自身に担い手になってもらう)
- ・食事ひとつにしても数人の手伝いが必要だし、会場準備等も全面的に支援しているが、今後、参加者（できる人）も交えてのサロン運営を望んでいる
- ・今のサロンは、民生委員、福祉委員、区長、サロン協力者で行っているが、元気な高齢者の方も自ら動かれる協力者がいると良い

### 「運営支援をしてくれる方」

### (アドバイスをくれる人)

- ・健康体操とか、歌、法話等、誰もが興味関心がもてる遊びのアドバイス
- ・催し物になにをするか悩むことが多々ある（マンネリ化）、なにか提案して頂けるとありがたい。（催し物の情報）
- ・たとえば、新しい取り組みを計画した場合、企画、コーディネーター、金銭面などのアドバイスの支援（中部での敬老会だけでなく、小さく隣の区のイベント（3区ほど合同）など、もっとお年よりが出向ける方向で・・・）
- ・年間サロンメニューの情報提供（参考：福井市社協）

### (講師紹介・派遣を調整してくれる人)

- ・レクリエーション、体操、セミナー、笑いなどの企画を増やして講師の紹介をしてほしい
- ・インストラクターなど運営の協力者、人材派遣があると助かる

### (交渉をしてくれる人)

- ・場所を決める際、いろいろな交渉など

### (スタッフの人材育成やバックアップ体制を支援してくれる人)

- ・協力者の人材育成
- ・それをするための人材、協力者が必要であり、支援者づくりのバックアップ体制を確立させる

### (地域への理解啓発を手伝ってくれる人)

- ・地域での理解
- ・区長さんも高齢者と一緒に参加して、遊んだり、歌ったり、高齢者と同じことをする
- ・ふれあいの集いやお祭り等 今現在 地域住民主体で行っている行事や催しに出向くことへの支援（たとえばお誘いに行き、付き添って歩く等の支援）

### (その他)

- ・若い人のスタッフの協力を願いたい（備品の貸出時の運搬等に）

◆通うための条件として「行きやすい場所」や通うための「交通手段」の記載に分けられる。

### 「行きやすい場所」

- ・場所に不便なところも坂井市内にはあるのでは。人口減少が進むと更に・・・その場合、お寺がある。交渉次第・・・。米ヶ脇では、昔、神社の祭りの催しをお寺でしていた。今は、お寺へのお参りが少ないとなげいているから

- ・場所の確保など
- ・参加者増により、開催場所が狭くなってきた
- ・集落センターが改築するので、7、8月使えないため
- ・空き家、空店舗を活用できる気軽に集まれる場所の確保

### 「交通手段」

- ・戸外活動をしたい時の交通手段に対して支援をして頂けるとありがたいです。
- ・マイクロバスの利用、タクシー等 移動に関する支援

◆物質的支援（一部、動物を含む）としては、大きく「費用」「備品」「その他」の記載に分けられる。

### 「運営費」

- ・運営維持費（支援金）が欲しい
- ・資金には苦しむので、どんな形でも良いのであると良い
- ・維持費や人材育成（ボランティアスタッフ）
- ・私達のサロンでは、区から1万円補助して頂いておりましたが、来年度から3万円に増額していただきました。今のところはこれが最大の補助であると思います  
交渉した努力の成果だと思います
- ・お茶代として、区より多少でも助成金を頂けたら

### 「備品」

- ・備品が不足（机等）
- ・人材の育成のための支援備品の貸出

### 「その他」

- ・子犬、子猫等を半日くらい貸し出してくれるような（小動物とのふれあい）

◆その他の支援として「他地区との情報交換や交流」「参加者を増やすための支援」の「地域共生につながる支援」「他団体との連携」など 記載もあった。

### 「他地区との情報交換や交流」

- ・他の地区との情報交換
- ・コミュニティセンターごとにサロンの交流を図り、レクリエーションゲーム等をして楽しみができる集いを開催してみてもはどうでしょう

### 「参加者を増やすための支援」

- ・当地区には、ふれあい会館があり、和室の会議室でいろいろな活動可能  
ただ、人数が少数のため、活動展開に苦勞する
- ・参加してもらえる人がもう少しいると良い
- ・地区のコミセンの利用が続けていければ十分です。しかし、参加者が5名以上でないと利用できないと通知されました
- ・一度参加すれば、次につながっていくと思う。行動しやすく、発言しやすい雰囲気を出せる支援が望ましい

### 「地域共生につながる支援」

- ・共生・互助の意義を理解し、そのような活動ができれば良いなあと思います
- ・意識改革の支援
- ・子どもたちを見守ると同じようにできれば。お年寄りの自意識を尊重しつつ、明るく楽しく子どもたちを交えた支援

### 「他団体との連携」

- ・近くで行われている行事、イベントなどへの呼びかけ（町、市役所から）などに便乗できやすくして頂き、金銭的支援もあると良い

## 10. 自由記載

本項目は、自由記載にて回答を依頼した。

- ◆サロン運営の悩みとして、「来てくれない人の誘い方」、「担い手不足」、「移動手段の問題で来れない方」、「活動内容」、「高齢者に関わる上での悩み」などがあつた。

### 「来てくれない人の誘い方」

- ・サロンに来てくれている方が固定しつつあり、来れない方（歩くのが億劫、人と話すのが苦手など）をどうお誘いしていくのかが目下の課題です。
- ・サロンを始めて8年経ちましたが、参加される方は喜んで来ていますが、新たな参加者増えず、協力者としては寂しく思っています。このため、回数を増やすこともためらっています。（最初は協力者あわせ30人程度いましたが、最近は20人程度となっています）
- ・サロン参加対象者（70歳以上）は多数いるが、大体参加する人がきまっている。いかにいつもの人以外（特に男子）の人にも来てもらえるようにするかと、催し物に変化をつけるかが課題。
- ・参加人数を増やすにはどのようなことをすれば良いか、多数の人が集まって頂けるのかわからない。これからの課題になります。
- ・高齢者の人全員が参加してほしい。声かけにも参加してもらえない人がいます。

### 「担い手不足」

- ・60代でも仕事を持っている人が多く、サロンの運営に関われる人がなかなかいない。
- ・2年間福祉委員をやらせてもらい、主にサロンを中心に活動しました。対象者は結構いましたが、サロンに集まる方は、ほぼ同じメンバーでした。その方々も肺炎で入院したり、骨折で入院し、歩行も不安定で欠席し、だんだん減ってきています。表面の「住民全体で」と書かれてありますが、同居している若い世代の方がサロンの言葉の意味、活動の内容など知識がなかったり、無関心であったりというのが現状です。なんとか多くの方が参加できるようにと、いろいろ考えましたが、交代で福祉委員をやる方も、仕事、孫守りなど抱えながら空いた時間をやりくりしているので精一杯です。敬老会にも参加しましたが、いろんな区の集まりでは、同級生や仲が良かった方達と会話ができ、楽しそうでした。ただ催し物がメインなので、他の区の方とあまり話す時間がなく、さみしそうでした。昔よく見た井戸端会議みたいな光景も少なく、近所に住んでいてもサロンに来て久しぶりに話せた方もいらっしゃいました。
- ・協力者が高齢化して減少し、毎回少ない人数での対応で、今後のサロン運営が不安。
- ・世話してくれる人がいなくて困ります。代表を決めるのが大変。



- ・個人的には、回数を増やしたいと思っていますが、回を増やすことにより、福祉委員のなり手に支障が生じるのではと不安になってしまいます。年2回のサロンを始めて3年、やっと今年区から活動費を予算化してもらい、一步ずつと考えています。

### 「移動手段の問題で来れない方」

- ・サロンに参加したくても、健康管理センター（サロンの拠点）まで行くことができない多くのみなさんをどうしたらよいか。
- ・高齢者と障害者で行う卓球バレーの練習、試合で区域外へ出る時、移動可能な足が不足していて苦勞しています。

### 「高齢者に関わる上での悩み」

- ・「地域」それぞれの方法で、サロン運営をされていると思いますが、私たちは情報不足ですから、なかなか何をして取り組んだら良いか計画が大変です。介護予防は、専門分野ですから、福祉委員も研修をうけて、知識を深めたいです。いつも「本当に困っている人がいるのではないか」など悩みながら取り組んでいます。

### 「活動内容」

- ・最近はお弁当になりましたが、始めたころはそばを打ったり、食事の支度をしたりと世話をする人の負担が大きかったので、福祉委員になる人はみんな嫌がりました。うちも20数年単身赴任で帰ったら福祉委員をやるように言われ、困惑しています。あまり手をかけなくても、もっと気軽に企画したり、参加できるようなサロンにしてほしいです。
- ・みんなが楽しく過ごせる場の提供は難しいです。
- ・現在 年4回行っているサロンでは、毎年手作りの食事を出しています。回数を増やすとなるとお弁当になるときもあるとおもいますが、それでみなさんが満足してもらえるか少し心配です。

◆要望として、「人材育成」、「運営について」、「活動内容について」、「費用面について」、「事務処理について」などがあつた。

### 「人材育成」

- ・サロン運営者連絡会の案内が福祉委員だけでふくしの会の会長には、今回まで届いていなかった。今回は中止になって、支障はなかったが以前は連絡があつて、担当者を出席させた。居場所を用意して、担当者及び対象者を出席させることだけで運営のための人材をどうするのか。

### 「運営について」

- ・サロン居場所の開催指針があると取り組みやすいのでは！  
補助金はその次ではないか！

### 「活動内容について」

- ・サロンを開いても、いつも同じような事の繰り返しのような気がします。  
ヒントになるようなことを教えてくれると助かります。
- ・外部講師によるボランティア講座を充実させたい。資料として頂いたリストから、謝礼金の不要の方を選ぼうと思うと演芸の方ばかりになる。介護予防の体操の講師、音楽と組み合わせることができる体操などの方を定期的（年2～3回）に依頼できたら良いと思っています。
- ・当方で、管理すべきと考えますが、過去にどのようなイベントを行って来たかがわかる一覧表（過去3年分位）を作成して頂けるとありがたい。（※色々と忙しいため作成が困難です。）

### 「費用面について」

- ・世話人の力量にも寄るが、現在は要請がない限り会場準備だけ。福祉情報の提供から、まち協の動き、防災をからめて、福祉情報まで自分が記憶に残ったテレビ番組をDVDにおさめ、最後に健康体操か認知症予防体操で、散会となる。一休みが目的で、近所誘いあわせて、参加してくれ、欠席の場合も理由を明確に伝えてもらえる普段の状況も畑したりの状況もわかるオープンなサロンを展開している。たまには、遠出がしたいとの要望があって、費用面で我慢している状態です。

### 「事務処理について」

- ・事務処理が少しでも簡単になると良いと思う。

### 「その他」

- ・初めてなので、どのように動いたらよいか、まだわからない状態なので、いろいろと教えてください。

#### ◆これから取り組みたいと思っていること

- ・サロンには、来られていないのですが、100歳近い方(3人)が自宅でお元気でおられるので、たまには、手作り弁当をごちそうしてあげたいなあと思っています。
- ・年齢層の違う人たちとのコミュニケーションをなかなかとることも多くないので、子どもからお年寄りまでできるような体験教室を行う。場所を変えてというのも良いと思うので、バスを出す。なかなか難しいですが・・・。
- ・サロン活動はとても大事な事だと思います。高齢者の声かけ、見守りは、これから

の福祉委員としての役割として努めていきたい。なんでも話ができる環境を作っていきたい。

- ・現職の方は、日昼の活動には無理があり、高齢の方には、夜で歩くことに不安があり、ジレンマがある。色々な活動をするには、現人数7名〜あと3名くらいの増があるのが、理想だが……。なかなかリーダー交代をしないので、新年度は強でもやれることを理解してもらい、交代しながら活動できるよう、内容も含めて、さらに話し合っていこうと考えている。
- ・今まで年3回だったのを5回にする。
- ・運営のためのヒント集でなるほどと思うところ。サロンの内容はどんなこと？ 要するに何でも良いということである。
- ・当区では、少グループですら交わる事のない状態です。私も子どもが小さいころは親同士の関わりがありましたが、子どもの成長とともに疎遠になってきています。これではいけないと思い、先日、日を決め、会合を開催するもいろんな都合で未定となりました。当小集落で、サロンよりも逆に大きな会合に入り、講演等を一緒に聞かせていただいた方が良いのかなとも考えます。
- ・要望があれば、回数増加も考える。

#### ◆サロンをしていて思う地域のこと

- ・20年くらい前から実施しているので、参加者（老人会）マンネリ化や日程調整が難しい。地区としての理解や支援はあるが……。！地区として人口は多いのに（サロンの協力者）に対しての理解がなく、さみしい。
- ・介護・災害・いずれも日頃のコミュニケーションで結果が大きく違ってくる思う。
- ・今後、一人暮らし世帯が増加していきます。地区の中でのつながりを持ち、元気に生活できるような対応策を具体的に主体的に取り組んでいくことが大切のように思います。
- ・辻区のみなさんは、よく声かけあい、互いに気にかけてあってくださるので、助かっています。夏休みのラジオ体操の参加もしてくださります。
- ・サロンの説明資料に65歳以上が高齢者となっておりますが、若干、若すぎるように思う。定年延長で、65歳〜70歳は、まだ会社へ行って仕事をしている人、個人で仕事をしている人が、たくさんおり、精神的にも若い人がほとんどです。私の中では、75歳以上が、本当の意味での高齢者というイメージになりますが……。  
(介護予防という面では、ある程度の精度のある健康診断等の実施。  
頭から高齢者＝介護という文章のイメージが良くない。)
- ・特別なパフォーマンスはいらない。日々の延長の中に「また参加したい」の想いがわくような会がつくれればと思います。子どもたちよりはるかに多い、お年寄りにどれだけの手をさしのべられるか地域（区）と行政のあたたかい取り組みが重要と

思います。(精神論だけですみません。)

- ・サロン活動を通して地域全体に意識が向き、行動するようになりました。内容等で困ったとき、社協職員にご相談すると「打ち出の小づち」のように適切なアドバイスを頂き、参加者のみなさんが喜んでくださり、本当にありがとうございました。
- ・高齢者が増え、社会保障費がままならぬというならば、他国から移民を多く受入れ、税収の増大を図ればよい。ただし、日本は多民族国家となり、日本文化は大きな変化(損失?)を覚悟しなければならない。
- ・幼児は別として、その他の者の求める生への希望にそうすべく手助けするのが、ふくしのあり方と思います。不足も問題だし、過ぎるのもいかなものかと思います。人間の尊厳とは一体なんなんでしょうか。”
- ・介護予防とか、安否確認とか、最初に目的を作る必要はないと思います。必要なのは、気軽に集い、なにかをすることが結果として、介護予防や安否確認につながっている。その意識改革が必要ではないですか？

#### 「実施している居場所の取り組み」

- ・今は週1回卓球バレーの練習会を下小森集落センターの一室で実施しています。メンバーは80歳前の女性です。
- ・卓球バレー同好会出、週1回の活動を実施中。

#### 「その他」

- ・月に2回開催できればいいなと感じていますが、協力者の負担が増すとできません。また、他のサロンでは協力者の手当等はどのようにされているのでしょうか。
- ・始めたばかりなので、よろしくお願いします。出前ボランティアリストをみると、講演料が書いてありますが、私たちが支払いでしょうか。私たちが知っている人にお願いしても謝金は支払うのでしょうか。

### Ⅲ 結果からみえてきたこと

住民がサロン運営を行う上で大切にしていることは、「高齢者の閉じこもり・孤立防止」「人とのつながりづくり」など、**人が集まり・つながる機会をつくり、地域住民が孤立しない環境づくりの機能**を大切にしていることが明らかになった。

開催範囲においては、「区内」で開催しているサロンが多く、高齢者が自分の足で来ることができる場所として、より身近な「区内」での開催が望ましいと考えている運営者が多いことが明らかになった。

また、サロン運営者が開催目的として大切にしている「高齢者の閉じこもり・孤立防止」「人とのつながりづくり」においても、**まずは区の単位での住民のつながりを重要**としていることが考えられる。

開催頻度は、「月 1 回」の頻度が最も多く、坂井市内の現状としては、住民主体で開催する上では、「月 1 回」の頻度が運営しやすい回数と考えられる。

しかし、「開催頻度の増加の意向及び必要な支援」の質問項目及び「自由記載」等の回答では、「協力人材がいれば回数の増加が可能」との回答をしているサロンも多く、**まずはサロン運営の仲間づくりや協力人材の育成等の支援を必要**としていることが明らかになった。

そして、自由記載での回答を依頼した「地域であると良いと考える居場所とその条件」と「住民主体で地域の居場所を運営する際に必要な支援」の項目では、住民の求める居場所としては、**誰かがいて、毎日開催しており、気軽に立ち寄れる**という居場所や、対象を子どもから高齢者まで多世代が集まれる**地域共生できる居場所**を作っていきたいとの思いがあることが明らかになった。

また、高齢者に対する介護予防のメニューをサロン内で実施する場合には、地域福祉と介護に精通したスタッフのバックアップや体操やレクリエーションを指導してくれる協力人材など、住民だけの運営ではなく、専門職の協力を必要としている現状があることが明らかになった。

いずれにしても、サロン運営者にとって、地域の居場所づくりは重要な活動と考え、活動を継続されている現状がある一方で、多くのサロンが担い手不足や地域の理解不足に悩んでいることがわかった。

当会としては、今回のアンケート結果を参考に、**今後も住民が大切にする「地域の居場所づくり」を応援するために、協力人材の育成支援や地域でのサロン活動における理解啓発の活動を進めていきたい**と考える。



## IV 資料編



# 1 調査要項

## 令和元年度 サロン運営者に対する介護予防の居場所づくりへの調査 要領

### 目的

坂井市では、地域介護予防活動としてサロン活動を推進しており、今後、高齢者の増加が予想される中で、外出の機会や居場所の一つであるサロン活動は高齢者の介護予防において、ますます重要な役割を果たすと考える。

本調査は、サロン運営者に対し意識調査を行い、今後、介護予防を推進するために必要と考えられることを把握し、サロン活動の運営支援に活かすことを目的とする。

### 依頼先

令和2年3月時点で、坂井市社会福祉協議会の実施する地域介護予防活動（サロン）に登録する高齢者サロンへ依頼。

### 調査内容

サロン活動者への意識調査

### 配布書類

①アンケート用紙

### 調査手順

1. サロン運営者連絡会にてアンケート調査依頼

## 2 依頼文

令和2年 3月 6日

各生きがいサロン 代表者 様

社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会  
会 長 内 田 正 義  
(公印略)

「サロン運営者に対する介護予防の居場所づくりへの調査」について（ご依頼）

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、当社会福祉協議会の活動に格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、坂井市では、地域介護予防活動としてサロン活動を推進しており、今後、高齢者の増加が予想される中で、外出の機会や居場所の一つであるサロン活動は高齢者の介護予防において、ますます重要な役割を果たすと考えております。

そこで、今後、介護予防を推進するために、どのような支援が必要か、サロン運営者のみなさまに対し、意識調査を行うこととなりました。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、本調査の趣旨にご理解いただき、調査回答にご協力いただきますようお願い申し上げます。

### 記

1. 事業名 坂井市介護予防生活支援体制整備事業（受託事業）  
「サロン運営者に対する介護予防の居場所づくりへの調査」
2. 調査内容 サロン運営の現状把握及び介護予防活動についての意識調査
3. 送付物 調査用紙（両面1枚）
4. 締切 令和2年 3月19日（木）  
※お手数ですが、上記締切日までに同封の返信用封筒にて、  
ご返送くださいますようお願い申し上げます。

《お問い合わせ》 坂井市社会福祉協議会 地域福祉課（担当：佐藤）  
TEL (0776) 67-0699 Fax (0776) 67-2807

# 1 アンケート用紙

※表面

令和元年度 サロン運営者に対する介護予防の居場所づくりへの調査

行政区： \_\_\_\_\_ サロン名： \_\_\_\_\_

氏 名： \_\_\_\_\_

1. 現在、サロン活動をしていますか。※□に<sup>レ</sup>点をお願いします。

している  していない

1-① 今後、地域でどのような居場所があると良いと思いますか。(自由記載)

1-② 住民主体で地域の居場所を運営する際に、どんな支援があると良いと思いますか。(自由記載)

● 「している」と答えた方にお聞きます。

2-① サロンの開催目的として大切にしていることは何ですか。

大切にしている順に1～3を【 】内に記入してください。

記入例) 【3】高齢者の閉じこもり・孤立の防止 【1】介護予防 【2】安否確認

【 】高齢者の閉じこもり・孤立の防止 【 】介護予防 【 】安否確認  
【 】生活のメリハリ 【 】人とのつながりづくり 【 】生きがい活動  
【 】心配ごとや困りごとの発見 【 】その他 ( )

2-② サロンは、どのくらいの頻度で開催していますか。※□に<sup>レ</sup>点をお願いします。

週1回  月2回  月1回  その他 ( )

2-③ サロンは、どのくらいの範囲で開催していますか。※□に<sup>レ</sup>点をお願いします。

区内  コミュニティセンター内  その他 ( )

2-④ 高齢者の介護予防には、外出の機会が大切と言われています。

今後、サロンの開催頻度を増やすことは可能ですか。

※あてはまるものすべての□に<sup>レ</sup>点をお願いします。

可能 (月・週\_\_回くらいまで可能)  
 運営費があれば可能 (総額年間\_\_\_\_\_円くらい)  
 開催場所が確保できれば可能  
 サロンに協力してもらえる人材・協力者がいれば可能  
 これ以上 回数を増やすことはできない  
 その他 ( )

裏面に続く⇒

**※裏面**

○その他、ご意見がございましたらご自由にお書きください。

[ ]

ご協力ありがとうございました。